



発行所
千葉敬愛高等学校
同窓会
千葉県四街道市
四街道1522
☎043(422)0131

会員の皆様へ

同窓会会長 石橋 実



昨年十月七日、母校の創立八十周年記念と新校舎落成記念の式典と祝賀会が、多くの参列者のもと盛大に挙行されました。

同窓会として記念事業に協力すべく、平成十五年十一月から、教育設備充実のためや、母校八十年間の歴史をまとめる記念誌発行のための募金をお願いしてまいりましたが、多くの方々からご協力をいただき、当初の目標には達しませんでした。同窓会としての面目は保つことができましたことを報告し、ご協力くださった方々に厚く御礼を申し上げます。

同窓会の歩みも、発足してから今年で七十三年になります。平成二十六年には八十周年を迎えることになりす。昭和

二十二年までは記録がみつからず、活動状況がわかりませんが、二十三年以降は、活動に多少の波はありましたが、諸先輩のご努力で活動が続いてまいりました。

私が役員になった十数年前は、総会には戦後の同窓会を盛り上げた先輩が多く出席されておりました。総会・懇親会の出席者も、八年くらい前のピーク時には百名近くになりましたが、先輩方が次第に出席不能になる一方後輩達の出席が増え、最近では減少が続いております。これは私の力不足によりますが、若い人達にも同窓会に関心を持っていただき、友達同士誘いあつて出席してくださるよう、お願いいたします。

総会・懇親会に出席したことで、後輩が先輩の力を借りたり、同期生間で協力し合うきっかけを得たりするのよいことではないでしょうか。母校では平成十三年から六年間にわたり学校経営にご努力され、その間新校舎建設並びに創立八十周年記念事業にご尽力くださった、加賀美修校長先生がご退任され、県立佐倉高等学校校長を定年退職された、須田

繁先生が校長に着任されました。加賀美先生にはそのご苦勞に深く感謝申し上げます。須田先生には母校の教育が益々充実するようにお願い申し上げます。同窓会としても、母校のために出来る限りの協力をさせていただきますと思っております。

本年度の同窓会運営につきまして、事務局員の皆様のお力と、役員の方々のご助言、会員各位のご支援いただきながら進めてまいりたいと存じます。どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

乱文で整いませんが、母校の更なる発展と会員皆様のご健康とご多幸を祈念申し上げます。ご挨拶といたします。

『退任』

前校長 加賀美 修



千葉敬愛高等学校、在職六年。大変お世話になりました。

同窓会長、石橋実先生はもちろんのこと、前同窓会長、君塚淳先生をはじめ数多くの役員・会員の方々に支えられ、なんとかこの六年間、そ

の責を全うできたこと、この上もない喜びと思っております。

本当にありがとうございます。おもえば、この六年間、平常の教育活動に加え八十周年記念事業の準備新校舎の建設と慌ただしい日々でありました。

歴史と伝統を誇る千葉敬愛高等学校のさらなる発展のために、生徒のために常に念頭に入れ、全教職員の協力のもと過ごしてまいりました。

特に八十周年記念募金活動において、募金委員会委員長、小倉 長造先生には大変なご苦勞をおかけし、本当に申し訳なく思っております。

先生をはじめ募金委員会の方々の並々ならぬご努力のお陰をもちまして、大変に厳しい社会情勢にもかかわらず、目標額の半分以上を越える募金が集まりました。

この募金も、前理事長、長戸路政行先生をはじめ理事会の温かいご理解をいただき、学校のため、生徒のために全て用立てることができました。お陰様で素晴らしい教育環境が整いました。

これからは今まで以上に中味です。「仏造つて魂しい入れず」では困ります。後任の須田校長がやってくれます。「中味で勝負」してくれれます。二万七千有余の卒業生のために全力を尽くしてまいります。

どうか後任の須田校長をご支援いただきたくお願い申し上げます。

「退任」の「退」は象形文字で「𠂔」、イ十日十攴。イは道の意、日は食の意、攴は足あとの下向きになった形をあらわしているようです。昔、役人が役所からしりぞいて家に帰り、食事をするさまから、しりぞくの意味が生まれたようです。「イ」のちに「𠂔」となったようです。又、「任」は甲骨文字で「𠂔」、イ十工。「𠂔」は人の意、「工」はものを入れて、上下を縛った袋を背に負う意。人が背中に荷物を負うさまから「𠂔」に「𠂔」の意味が生まれたようです。

まさに、この六年間、「になつてきた」千葉敬愛高等学校をしりぞくことになりました。「任重くして道遠し」とひしひしと感じた六年でもありました。

学校という場で「一体何を「になう」のか？もちろん生徒以外の何ものでもありません。

毎年、くる日もくる日も流れ悠久、千数百人の生徒を背負い、僅か三年という長い人生にとつては、一瞬の時間ではありますが、学校というその背を降りて、立派に一人歩きできるようにすることこそ、教師の「任」であり、「責」であります。まさにそれは「重」であります。

教師は、生徒に対して生徒一人一人のこれからの人生を力強く歩みはじめてもらうための重大な責任を負わなければなりません。

四十四年間の教師生活に終止符を打った今、果たして自分にはそれが

できたのか？と問えば、甚だころもたない限りです。しかし、正直に言つて、その責から、その重から解放され、「ホット」しているのも事実です。

千葉敬愛高等学校を去り、これからは、新たな(?)分野、学校法人千葉敬愛学園、二高校・幼稚園担当理事として、学園発展のために全力を尽くして行くつもりです。

千葉敬愛高等学校の発展はもちろん、同窓会の益々の隆盛を心からご祈念申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

『同窓に学ぶは、

兄弟の義あり』

校長 須田 繁



戦国武将・伊達政宗は「酔余口号」という詩の中で、「馬上に少年過ぎ／世は平らかにして白髪多し／残軀は赦す所／樂しますして如何せん」と謳っているとか。

いつしか年月が流れ、今年三月、県立佐倉高等学校で定年退職の時を迎

えましたが、未だその実感は湧いてきませんでしたが、与えられた教師使命を十分果たしていませんでした。それとも教師の仕事には終わりがな

いのでしょうか。

そのような折り、ご縁がありまして、皆様方の母校である千葉敬愛高等学校に勤務させていただくことになりました。本校は、大正十四年に旧制関東中学校として創立され、昨年十月には創立八十周年記念式典を挙行されたと伺っております。このような歴史と伝統ある千葉敬愛高等学校の校長に任命された今、自分に課せられた職責の重大さに改めて身の引き締まる思いがしております。

前校長の加賀美修先生をはじめ、歴代の校長先生及び教職員の方々、並びに二万七千人を超える卒業生の皆様方が築いてこられた歴史と伝統を大切にしながら、急激に変化する社会の動向を踏まえ、本校のさらなる発展のために、微力ながら誠心誠意努力してまいり所存であります。

「同窓」という言葉を耳にすると、私は、いつもあることを思い出します。それは教員一年目の時のことであります。私は、昭和四十四年四月、千葉県内の農業高等学校で教員の第一歩を踏み出しました。男子ばかりの学級で、学級担任は二人制でありました。私は年配の農業専門のT先生とペアになりましたが、もとよりこちらが新米教師、教えを乞うばかりでありました。当時、校長先生からは、

「何もわからないあなたたちには、給料をやるどころか逆に授業料をもらいたいくらいだ。」と言われ、返す言葉を知りませんでした。T先生は競争帰りで、戦車に乗っていたそうです。敵から受けた砲弾の破片が未だに頭の中に残っていて、時々強烈な頭痛の発作が襲ってくると言っておられました。そのT先生がじつと目を閉じ、頭を抱えてはうずくまる光景を何度か目にしたことがあります。しかし、T先生の教育にかける情熱と迫力には凄まじいものがあり、言動の一つ一つに重みと奥深さを感じておりました。その先生がクラスでよく言っていた言葉の一つに、「同窓に学ぶは、兄弟(けいてい)の義あり」というのがあります。今でも、実に深みのある言葉だと思っております。昔から「袖振り合うも多生の縁」とか「袖すり合うも多生の縁」と言いますが、これは見知らぬ人とたまたま道で袖をすり合わせるというのも前世からの深い因縁によるもので、人と人との関係は、単なる偶然によって生ずるわけではない、という仏教的な考え方から出てきた慣用句と言われております。「同窓に学ぶは、兄弟の義あり」という言葉は、先の慣用句に勝るとも劣らない意味深い言葉だと思っております。「同窓」というのは、志を同じくする者が自分の意志で一つの学舎(まなびや)に集まり、お互いを高め合うために共通の先生の下で集団生活

を管むということだからであります。自分の意志によるという点からすれば、自分の意志によらない前世、兄弟以上の「義」があると云っても良いかも知れません。

そのT先生は、台風などで列車が動かない時など、それを理由に生徒が休んだり遅刻してくることを良しとしませんでした。「線路伝いに歩いてくればいいではないか。」というのが口癖でありました。当時、私は「生き物を相手にしている人は違うな学ばなければいけない」と思ったものであります。現在の教育界では「安全第一」を旨とし、様々な理由から生徒に危険を冒させることをひどく避けようとしています。高校生の年齢の者にそれでもいいのかなと思ったりもしております。大きな災害等が発

『近況報告』

教頭 志保澤 秀 幸



同窓会会員の皆様におかれましては益々ご健勝にてご活躍のこととお喜び申し上げます。平素は本校の教育活動に多大なご支援とご協力を戴

生した時、高校生は救助される側に回りがるだけでいいのか、救助する側に回ることも教える必要があるのではないかと考えたりしております。

ところで、同窓生の皆様方の温かいご協力により、素晴らしい新校舎が完成いたしました。「仏作って魂入れず」と言われぬよう、「敬天愛人」の精神を肝に命じ、新校舎に確たる魂を吹き込み、さらなる飛躍につなげるよう、「新たな出発」に向け努力したいと考えております。皆様方のご支援ご協力を引き続きお願いいたします。

最後になりましたが、千葉敬愛高等学校同窓会の益々のご発展と二万七千有余名の同窓生の皆様のご健勝を祈念し筆を置きます。

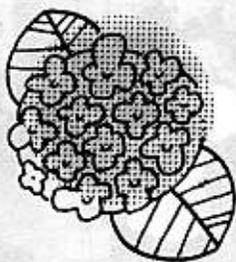
き誠に有難うございます。さる四月十日の平成十九年度入学式において四百八十二名の新入生を迎えることができましたことをご報告いたします。今や私学にとって受験生を増やすことと入学者の確保が大変難しい少子化の中においてこれだけ多くの生徒を集めることができたことは、やはり昨年完成した新校舎の影響が大きかったと考えられます。これからは仏作って魂入れずといわれぬよう教職員一丸となり生徒たちのことを第一に考えたより充実した教育活動の展開に取り組んでまいります。

さて、近況事業報告といたしましたし、何よりも先ずは昨年十月七日に創立八十周年記念式典並びに新校舎落成式典を皆様方の多大なご支援とご協力をいただき盛大に開催できましたことに対しまして改めて心より感謝申し上げます。また、多くの同窓生の方々からご寄付いただきました寄付金につきましては野球場の整備やマイクロスプアの購入等で有効に活用させていただきました。野球場の内野の整備については野球部長並びに監督の指導をいただき相模原産の黒土と鬼怒川産の砂を入れることにより素晴らしい出来上がりとなりました。部員たちの感想は今までのようなイレギュラーバウンドも無くなり安心してプレイができると申しております。これからの活躍を期待したいと思っております。

次に平成十八年度中のクラブ活動成績について報告させていただきます。関東高等学校体育大会千葉県予選会の成績について、ソフトボール部が優勝、同じくバドミントン部男子団体戦優勝、女子団体戦準優勝、ソフトテニス部男子団体戦第三位、ボクシング競技榊原葉咲君がライトフライ級で優勝し、それぞれ関東大会に出場しました。文化系のクラブでは吹奏楽部が日本マーチング&パトンステージ全国大会に出場して講師者特別賞を受賞しました。

次に全国総合体育大会出場クラブとその成績について、男子ソフトボ

ル部が十八年ぶりに二度目の全国優勝を達成して創立八十周年記念式典に華を添えてくれました。男子バドミントン部団体戦ベスト十六、個人戦では石川、秋葉組ベスト十六、金谷、阿蘇組一回戦、シングルス金谷ベスト十六、石川ベスト三十二、女子バドミントン部平野・栗田組ベスト三十二、シングルス高木一回戦、文化部では弁論部が全国総合文化祭に出場優秀賞十位入賞、次に県新人選抜大会の成績について、ソフトボール部優勝、男子バドミントン部団体戦優勝、女子バドミントン部団体戦準優勝、陸上部萩野慶彦君が二百メートル、四百メートルでそれぞれ三位、二位となり関東選抜大会に出場しました。文化部では弁論部が千葉県大会団体の部優勝、個人の部でデュー小倉芽里沙さんが最優秀賞、角原雅子さんが優秀賞、囲碁部で大西君が関東大会でベスト四位に入り、全国囲碁選抜大会に出場しました。以上が主な結果になります。



教頭 新田 幸二



一、進路状況

平成十八年度もおかげさまで四百五十四名の卒業生を無事に同窓生として送り出すことが出来ました。学年主任の千葉先生をはじめとして、学年団一丸となつての努力が実を結んだものと考えます。

十八年度の特筆すべき事は、国立大学について十二名という二桁の合格者を出したということです。最近はその影響から、「大学全入時代」といわれ、まるですべての生徒が希望の大学学部へ苦勞せずに入學できるかのような夢物語が語られたりしますが、全体の統計数値の上で、評価の定まった大学・学部の場合、依然として狭き門であります。いかにしてモチベーションを上げ、維持し、継続した努力を怠らさず、実力をつけていくことが出来るのか？学校全体としての取り組み、習熟度別授業、放課後の進学補習、夏期講習、勉強会宿などの成果と考えます。

また、要因としては、①総合学習の中で進路適性、進路についての学習を早くから始めるこ

とが出来た。

②科目数の多さに途中であきらめることなくセンター試験を受験し、三月の前期後期の試験まで頑張り抜いた。

③自分の学力と得点力を正確に分析し、教員を信頼しよく話し合い、可能性のあるところで最後まで懸命に努力し、勝負した。

これから続く、後輩達への良い教訓になってくれることを願います。また、同窓生として今後のご活躍を期待します。

二、机椅子のインドネシアへの寄贈

新聞紙上でも何度か取り上げられ、ご存じの方も多いと思いますが、昨年三月、本校建て替えと同時に切替となる机椅子約千二百セットをスマ



トラ沖地震で大きな被害にあったインドネシアの学校にユニセフ千葉県支部のご協力をいただき、お送りすることが出来ました。今年、一月に配布が完了し、現地の皆さんから、「バグリス(とても良い)」と感謝の言葉が寄せられています。

三、AEDの寄贈に感謝

十八年度末に、後援会の後藤様より、AED(自動体外式除細動器)とそのトレーニングキッドをご寄贈頂きました。また、本年度五月には、全労済様より創立五〇周年記念事業としてAEDを寄贈していただきました。AEDにつきましては、昨年の東京マラソン、今年四月三〇日の岸和田市飛翔館高校での野球試合中の投手への打球直撃事故などでの救命事例があり、その効果も大きく、各公共機関・駅・空港などに配備されています。本校では、すでに事務室に一台配備しておりましたが、さらに、体育館、内黒田グラウンドへの配備を予定しています。

また、先の救命事例では、たまたま消防士の救急救命士の方がランナー・観客として居合わせたことが救命につながったということですが、いざというとき、一人一人が、救命処置を施すことができる必要があります。そこで、五月九日四街道消防署のご協力を得て、心肺蘇生とAEDの職員講習会を行いました。今後、部活動やクラスなどでも講習を企画し、「偶然を必然に」するべく活用



していきたいと思います。大変ありがとうございました。

四、平成二〇年度から敷地内禁煙へ
平成十五年に「健康増進法」が施行され、本校では校舎内分煙を進めて参りましたが、千葉敬愛学園での検討の結果、平成二十年四月より、敷地内禁煙とすることになりました。すでに、J・R東日本や多くの公共機関では実施済みであり、法令遵守の学校は教育機関であり、法令遵守の責務を負っております。愛煙家の皆さんには心苦しくもありますがご協力をお願いいたします。



創立八十周年記念事業 並びに新校舎落成記念 式典、収支報告等

事務長 村山 与志彦



歴史と伝統を誇るわが千葉敬愛高等学校が創立八十年の節目を迎え、次の百周年へスタートを切る時、同時に新校舎が落成したことはこのうえない喜びに堪えません。

昭和三十九年に現在の地へ千葉の穴川から移転し、早いもので既に四十三年の時が流れております。

これまで八十年の歳月を積み重ねる間に、本校の学校評価となる学力のレベルアップやスポーツで名声を獲得してきたことは教員はもとより、偏に同窓会やPTA、後援会の先人の方々からのお陰であることは想像に余りあるものがあります。

そして、昨年十月七日の記念式典当日は晴天のもと、多くの方々を迎えて盛大に行事を挙行することが出来ました。

本校の歴史を顧みる時、大正十四年四月に旧制・関東中学として発足したことが学園の沿革に記されてお

ります。

その後、昭和三十三年に現在の校名に変更され、県下においては長戸路家の経営する千葉敬愛高等学校を知らない人はいないという程、歴代の経営者は「敬愛人」の精神を礎に貫きながら、派手さもなく地道な学校運営を目指して来たことが今日に至り、県下私学の経営において不動の地位を確立出来たのではないかと考えられます。

今回の創立八十周年記念事業を進めるにあたり、三年前の平成十五年十一月に記念式典実行委員会を立ち上げ、石橋会長を中心として総務委員会、式典委員会、記念誌委員会、募金委員会からなる各委員会は、それぞれに数多くの部会を開催し、立派な記念誌を完成させ、また多額の浄財を賜ることに繋がりましたが、式典に至るまでには各委員の皆様のご労苦は並々ならぬものであります。

また母校を想う固い絆で結ばれた同窓会の方々の人間関係は委員会や式典への積極的な参加となり、敬愛の素晴らしい校風に感心致しました。

式典に出席された方の中には、関東中学を卒業された先輩諸氏も多くお見えになり、古き良き時代の話をお聞かせくださり、創立者の長戸路政司先生のこと等を、五十年から六十年も経っている在校時のことが、つい昨日のことのように鮮明なる印象で語られる姿を拝見し感銘を受けた次第です。

創立80周年記念事業寄付金

収入の部

区分	金額	備考
同窓会	19,271,500	573名 + 1団体
企業等	17,765,000	99社
後援会	1,838,000	45名
PTA	5,626,423	2名 + 1団体
学園関係	7,324,325	93名 + 1団体
小計	51,825,248	812件 + 3団体
式典御祝儀	2,471,000	239名(件)
合計	54,296,248	

支出の部

項目	金額	備考
記念誌	14,563,225	5,000冊制作費、送料等
式典及び祝賀会	7,105,936	式典、祝賀会、手土産等経費
全校生徒観劇会	1,607,330	ミュージカル「尾崎豊心の景観」
クラブ活動の振興	9,436,870	マイクロバス購入、部活用備品購入
施設・設備整備	10,421,940	グラウンド、体育館整備、記念庭園等、野球、ソフト、サッカー、テニス、
その他	5,759,309	インドネシアへの机・椅子寄贈経費
事務費	4,310,102	募金趣意書作成、礼状、郵送料等
会議費	1,111,759	総会、常任委、各委員会、解散・反省会等
合計	54,316,471	
収支決算	-20,223	

昭和二十年前後の千葉市周辺の男子の学校は千葉中（現・千葉高）や千葉商業・千葉工業と本校の前身である関東中学位であったとのことで、関東中学を卒業された先輩方の社会へ出て活躍されたことでは各業界で責任者となり頑張った方、消防局で局長として尽くされた方、また国鉄（現・JR）で重責に就いて頑張られた方等々、かなり多くの先輩が本校を卒業され社会で活躍し、リタイアした後になっても本校の建学の精神である「敬愛人」が脈々と生き続けていることを痛感いたしました。

また、今回の式典に合わせ三年掛りでの新校舎建設工事も終了しましたが、校長を中心としたスタッフによる綿密な数多くの会議を経て、建物が無事に完成いたしました。

次の百周年に向けて、校長先生の改革元年と位置付けたスローガンの基に、教職員が一枚岩となって本校生徒のために、また学校のためにとなる更なる発展のために努力していくこと肝要であると考えています。

同窓会の皆様方におかれましては、今後ともご指導ご鞭撻を切にお願い申し上げます。

最終の学校創立八十周年記念事業並びに 新校舎落成記念式典実行委員会開催される

平成十八年十二月九日京成ホテルミラマールにおいて、長戸路理事長、加賀美校長、石橋実行委員会会長他委員が出席し、千葉敬愛高等学校創立八十周年記念事業及び新校舎落成記念式典実行委員会の反省会及び解散式が行われました。

これは、記念事業及び新校舎落成式典が終了したことに伴い、こ

報告 創立八十周年記念に特別寄付金

千葉敬愛高等学校創立八十周年記念事業について、同窓会から一千万円を特別寄付金として贈呈しましたので、同窓生の皆様にご報告をさせていただきます。

なお、同窓生の皆様には記念事業につきまして、ご協力をいただきましたことに感謝申し上げます。本当にありがとうございました。



れまでの事業報告が、募金委員会、式典委員会、記念誌委員会、総務委員会から行われたものです。

また、学校側からは、これまでの会計報告と三月までに行われる八十周年記念事業の野球グラウンド整備、マイクロスパス購入などの説明が行われました。

なお、別掲のとおり全事業が説明のとおり完了しました。

創立八十周年記念事業及び新校舎落成記念式典実行委員会募金委員長

小倉 長造

同窓会会長 石橋 実



千葉敬愛八十周年に寄せて

千葉敬愛高等学校

元校長 石毛 正 夫

千葉敬愛高等学校の八十周年、心からお慶び申し上げます。校長として五年間（平成九年四月～十四年二月）学校の経営に携わった者として感慨入りのものがあります。創立者、故長戸路政司先生はこの学校の晴れの姿を御覧になり、さそがしお喜びのことでありましょう。

学校の発展は学校のみ努力によって成されるのではなく、学校を取り巻く環境と一体となって成されるものです。本校の場合、同窓会・PTA・後援会が三位一体となって協力してくれるところに大きな特色があります。いずれの場合も学校経営上のことに介入することなく、むしろ校長の意向に沿って、物心両面にわたって応援してくれることは大変有難いことです。このことは取りも直さず、学校と卒業生、学校と保護者、学校と後援会が生徒を中心に据えて協力し合うということであり、教育上、誠に切実な姿といえます。

校長として在職した五年の間、力を入れたのは教育をするための「器」と「中味」を充実させることでした。市の中心部に在る本校は、校地が一般の高校の四分の三程度と狭く、校舎の老朽化が進行し、耐震性の上からも問題となっておりました。そこで、先ず平成十二年四月、市内の内里田地区に

サッカーとテニスの専用グラウンドを完成させました。この事業の完成にあたっては筆舌に尽くし難い多くのことがありましたが、特に胸の熱くなる思いがしたのは、四人の土地所有者が「千葉敬愛のことなら」と、と言って土地の提供に協力してくださったことです。そのとき、学校がこれ程までに信頼されていることを知り、深く感動し意欲が湧いてまいりました。この内里田グラウンドは周囲の環境と設備に恵まれ、高校レベルとしては県下一を誇れる素晴らしいもので、本校のシンボリック存在です。そして、千葉敬愛高等学校関係者の永年の夢であった校舎の全面建替えが約五年の歳月を経て完成し、ここに八十周年の記念式典が挙行されますことは感慨無量の一言に尽きます。正直申して、私にとって、校舎の全面建替え決定に至るまでの経緯は、壮絶なドラマを演じたように思えてなりません。この大英断を下された長戸路政行理事長の慈愛溢れるお人柄とご見識に満腔の敬意を表したいと思います。

一方、教育の中味の方ですが、私の経営方針の根本は、「日々新たな日、日々新たな日、新たな日」です。日々前進することによって喜びと感動を味わうことができるからです。在任中に、私の尊敬して止まない君塚守さん（前同窓会長）から東大に入れることと甲子園出場という二つの課題を仰せ付かりま

した。一方の夢は果たすことができずしたが、甲子園出場の方は今一歩のところなきにきいてます。近いうちに必ず実現するものと確信しております。(男子ソフトボール部が第四十二回全国総体で優勝、平成十八年八月五日(土)〜八日(火))

「敬天愛人」をモットーとする本

学園は永遠に不滅であります。次の百周年を目指して千葉敬愛高等学校がさらなる発展をされることを念じて止みません。

在校生の活躍

生徒部活動奨励規定に該当する活躍をした次の部に奨励金を贈呈しました。

男子ソフトボール部

全国高等学校総合体育大会
優勝 奨励金 十万円

男子ソフトボール部

千葉県高等学校新人体育大会
優勝 奨励金 参万円

男子バトミントン部

千葉県高等学校新人体育大会
優勝 奨励金 参万円

弁論部

千葉県高等学校弁論大会
優勝 奨励金 参万円

創立八十周年記念誌をあなたも一冊いかが

昨年創立八十周年記念事業で作成されました「学校創立八十周年記念誌」をご希望の方へ、有償でお分けしております。

直接学校事務室窓口または、現金書留等でお申込みください。送料込みで三千元です。

この記念誌は、学校の創立時から現在までの変遷や部活動や同窓会

敬愛大学の改革状況と本学への受験推薦のお願い

敬愛大学学長

土井 修



昨年8月6日付で学長に就任して以来早くも9ヶ月が経ちましたが、「全入時代」という状況下で、教育、研究、経営のそれぞれの中でさまざまな改革の必要性を痛感し、その職責の重要性を改めて認識している次第です。まず、現在実施しない検討中の改革の状況をお知らせいたします。

第一に、教育面での改革です。経済学部経済学科では、社会的ニーズの多様化に対応して、経済系(日本

に関する内容など盛り沢山の内容となっております。ぜひ、同窓生として記念に一冊お持ちになることをお勧めいたします。

連絡先 千葉敬愛高等学校事務室

創立八十周年記念誌購入

〒284-0005 四街道市四街二五三

電話 〇四三(四三二)〇三三三

経済、国際経済、生活経済の3コース)と経営系(ビジネスマネジメント、

ビジネス情報、現代産業の3コース)を設けていますが、これらの教育の

質をさらに充実させることを重要な課題としています。国際学部では、

今年度大幅な改革を行い、国際協力学科を国際学科に改め、その中に「国際学専攻」と「地域こども教育専攻」という二つの専攻を設けました。国際学専攻の中には、さらに国際ビジネス系と国際教養系という二つの系

を設け、国際ビジネス系の中にはさらにアジア&グローバル、地域ビジネスの2コース、国際教養系には国際コミュニケーション、国際協力の2コースを設けました。地域こども

教育専攻は小学校の教員養成課程で、今後予想される団塊の世代の退職な

どに伴う小学校教員の不足を見据えて、英語が堪能で国際感覚を持つ小

学校教員を育成することがその目的です。

第二に、私学としての特色づくりの一環として、建学の精神である「敬天愛人」を教育面で実践することを検討しています(「敬天愛人講座」の設置など)。建学の精神を具現化することによって、学生諸君の精神を豊かにすることが狙いです。

第三に、情報処理、簿記、英語等の資格取得を推進するとともに、キャリア教育を徹底させることで

す。これらはいずれも学生諸君の学習意欲を高め、また、就職にも有利となります。

第四に、就職状況を量的にも質的にも高めることです。このため平成19年度からキャリアセンターを発足させました。このキャリアセンターの任務は、従来の就職斡旋の他に、キャリア教育を実施することです。

一年次からのキャリア教育によって早くから就職への意識を高め、就職率をさらに引き上げたいと考えています。

第五に、生涯学習講座の推進です。最近、大学の地域社会への貢献の必要性が叫ばれ、本学も昨年9月から本格的な生涯学習講座を開催しています。地域における敬愛大学のプレゼンスを高めることにもなると期待

しています。

第六に、学生生活のアメニティを高めるために、稲毛キャンパスに7階建ての新校舎建設を計画しており、

平成20年秋に完成の予定です。また、平成21年度からは国際学部(佐倉キャンパス)の稲毛キャンパスへの移転を計画しています。

以上のように、本学では、さまざまな改革を行っていますが、18歳人口の減少によって、定員の確保は年々厳しいものとなっております。そこで、敬愛大学を維持・発展させていくために、千葉敬愛高校同窓会会員

第九回 十七年会開かる!

昭和二十二年卒業

阿部 尚

毎年秋季の定例行事となった十七年会(昭和十七年閏中入学、二十一年と二十二年卒業の同期会)は、さる十月二日(月)、おなじみの「ミヤマール」において十四名の参加を得て開かれた。

会は司会者のもとに、開会、物故者に対する黙祷・幹事代表挨拶・乾杯・懇談・中締・閉会の順をもって、終始和気あふれる中に楽しく過ごした。

同期会に関わること等について、順不同のままに列記してみますと、

★十七年会の主旨は、開学八十年史の中にあつて第二次世界大戦の開戦直後から終戦直後にわたる、正に戦争時代の落とし子達であつたといえる。こんな訳で、多感な学生時代の殆どは学徒動員のため軍需工場とともにあり、同期会の話題も当時を懐かしむ声が圧倒

皆様の協力を是非ともお願いしたく、親族はもちろん知人、友人などを通して本学への受取を推薦していただければ幸いです。微力ながら、今後とも敬愛大学をあらゆる面でレベルアップしていく所存ですので、ご協力のほどよろしくお願ひ致します。

問合せ先 敬愛大学 総務課

電話〇四三(二五)六三六三(代)

的に多かつた。

★材木運び、石炭のトロッコ運搬、アルコール原材料のサツマイモや砂糖等に余る重量物資の持ち運び、ボイラーの終日交替勤務等々、IR稲毛駅近くに今も稼働中のアルコール工場の鉄塔が見えるが、これこそ我等十七年会学友達の勤労動員中の最後の職場であつた。ペンに代わつて軍需物資を月謝に代わつて月給を貰つた史上まれにみる学生時代だつた。

★夏の甲子園大会に向けての千葉県制覇まであと一歩と勝ち進んだ兄弟校横芝敬愛の活躍が光つた年であつたが、何事によらず頂点を極めることは難しい。しかし、願わくは甲子園球場の上空に母校の校歌が響きわたることを念じたい。閏中入学早々のころ、ある四国の知人から学校を聞かれ「閏中」と答えたところ、「野球の閏中ですか」と感心された。かつて我が母校は中学球界では全国区だつた訳です。

★今日に思うこと、あれこれ「年々歳々人同じからず、参加者が

減るのは淋しいが、ここに一年ぶりに元氣な皆さんに逢えてありがたう。」「今後どこまで続くかわかりませんが、毎年楽しく参加させて頂きます。例え、足を引きずつても!。」

「皆さんの意気には励まされる思いです。今後とも長生きして、また逢いましょう。」

「七十数年生きてきて思うことは、日々真面目に一生懸命やっていたれば天は自分を裏切らないし、必ず応えてくれる。続いた雨もきつと止む。」

★おわりに

八十に近い我々が、六十年ぶりに同窓会を開き旧交を暖めることは、類が少ない。これからは長寿社会でこれが当たり前になるかも知れないが、その意味で我々は時代の魁を走つていっている。これからも頑張りたい。同窓会より過分なご援助、多謝。



千葉敬愛を卒業して

平成十九年卒業生

新常任理事 氏 家 一 輝

今、千葉敬愛で過ごした学校生活を振り返ると、とても充実していたと思う。そして何よりも楽しく、自分を一人の人間として成長させてくれた場所でもあると思う。熱く激しい三年間だつた。

私は野球部に所属していて、放課後、土日のほぼ全てを部活に打ち込んだ。自分なりに一生懸命に頑張った。努力したが、レギュラーは獲れなかった。しかし、卒業した今、ふと思う。「また野球部の仲間達と野球をやりたい。」そういう気持ちが入り込んでくる。しかしそれは、叶わない気持ちで淋しく思う。叶うなら叶って欲しい。卒業して、野球部のみんなが別々の道を歩んでいく。みんなが同じグラウンドに立つ事はもう無いだろう。寂しい。だけど、三年間共に汗を流し、涙し、そして、喜びを分かち合つた。忘れられない思い出であることだろう。

私は思う。いろいろ大変な三年間だったが楽しかった。

最後に、ありがたうございました。

